

情勢報告

青色申告会の活動を通じて、経営改善を考えよう！



簿記・税務以外にも、栽培や経営の改善に向けた情報提供を行いました。

平成21年3月23～27日、JA安芸市青色申告会5支部（会員数143戸）で、H20年度最後の講習を行った。内容は、H20年度決算を基にしたナスの地域標準値と自己経営との比較や、月別の金の動き、出荷形態による収支の差など、「経営の目」で見返すポイントについて投げ掛けた。

振興センターは①農家経営の向上②経営状況の把握③経営改善への誘導の3つの目的を持って青色申告会を指導しており、H20年度は延べ講習回数76回・延べ参加人数850名に対し指導を実施。H21年度も、安芸地域の課題である系統率向上も含め、引き続き経営面からの投げかけを行っていく。

篤農家の技術を学ぼう！ ～ナス地区会の開催～



農繁期にもかかわらず
熱心に勉強中

3月23日～27日にかけて、安芸集出荷場管内の4地区で第3回ナス地区会が開催された。今回は“18tどりナス栽培―篤農家技術とこれからの管理―”をテーマに栽培講習会・現地検討会を実施し、37名の生産者が参加した。

講習会では、これまで地区会で提案してきたペットボトル採水器やミズトールを利用した灌水・肥培管理法の途中経過を紹介。特にミズトールによる土壌溶液分析に興味を持った生産者が多く、熱心に話を聞く姿が見られた。

現地検討会では、篤農家も含めた3圃場で実施。振興センターが篤農家の灌水・施肥量や温度管理の特徴を説明し、篤農家本人も交えた活発な意見交換が行われた。

ナスの収穫作業が忙しい時期の開催ということで、参加者数はやや少なかったものの、「篤農家のデータは大変参考になった。今作終了時の反省会でさらにバージョンアップしたものを紹介して欲しい」という要望なども出され、次作へつながる地区会となった。

安芸集出荷場『第4回女性部会』の開催



3月30日、安芸集出荷場にて第4回女性部会が開催され、ナス、ピーマン、ミョウガ等を生産している17名が参加した。

今回はアスパラガス、ナス（土佐鷹）、ピーマンの3圃場を視察。品種の特性や天敵の利用方法等に関して、積極的に質問したり意見交換する姿が見られた。

また講習会では、振興センターがペットボトルを利用した簡易採水装置の作り方や、本園芸年度の安芸集出荷場研究会の活動内容を説明。採水装置については、事前に視察したナス圃場でも利用しており、参加者からは「面白いね～、よう考えちゅう」「子どもでも作れるね」という声が聞かれた。

本園芸年度からは、女性部の活動が活発になり、勉強会の開催回数も増えている。今後も、女性の栽培意欲が向上するような部会となるよう、支援していく。

ポンカン産地の今後に向けて（JA東洋支所柑橘部役員会）



議論する柑橘部役員

4月3日、柑橘部役員会（役員9名中参加者6名）が開催された。振興センターから、2月に実施した選果機に関するアンケートの結果報告と、今後の活動についての問題提起を行った。

農家からは、選果機についてもっと具体的な数字が欲しいという意見や光選果についてのメリット・デメリットについてわかりやすい説明が欲しいといった意見が出た。

今後は、選果機についての検討と並行して、ポンカン産地の将来について議論を深めていく。

ブルースター疫病対策現地検討会



部会員のハウスを熱心に観察・議論

近年、ブルースターに疫病が発生し、切り花生産量の減少に大きな影響を及ぼし、市場要請に応え切れていない。そこで、JA土佐あき花き部芸西支部ブルースター部会員全員（8名）とJA職員、花きおよび病理専技、農業技術センターから研究員4名の参加を得て本会議を開催した。参加者全員で9日、ハウス4か所を回って、現状の把握と今後の対策会議を行った。会議では、農技センターから疫病対策試験の結果報告があり、部会員に大きな興味をもたらしめた。ただ、現場ではすぐに使える技術ではないため、ぜひ現地試験を実施して欲しいとの意見等が出て、会議は盛り上がった。

学び教え合うアスパラガス栽培



初めての現地検討会で活発な意見交換が行われた。

平成21年4月14日、JA土佐あき管内でアスパラガスを栽培あるいは興味を持っている農家を対象に現地検討会が開催され、JA営農指導員を含め12名の参加があった。高知県でのアスパラガスの半促成長期どり栽培は導入が浅いが、注目を浴びている有望品目であり、他産地の生産事例を基に試行錯誤しながら栽培に取り組んでいる。お互いの技術研鑽と不安を抱えながら新たに栽培を始めた農家へ先輩農家からのアドバイス等を目的とし、今回初めて開催した。「立茎させる茎の太さはどれくらいがいいか？」や「摘心のタイミングはどれくらいがいいか？」等活発な意見交換がなされた。今後はアスパラガス部会として立ち上げ、定期的に現地検討会を開催する予定である。

土着天敵に期待奈半利研究会



奈半利研究会では以前から自主的な温存ハウスの取り組みも行っており、土着天敵への関心は高い。

平成21年4月14日、奈半利町のナス、ピーマン農家を対象に現地検討会と栽培講習会を行い、JA営農指導員をふくめ11名の参加があった。

例年この時期はすすかび病の発生が見られ、コナジラミやアザミウマ類とともに防除に苦慮しており、現在産地に導入されるようになった交配用のハチや天敵薬剤と共存できる防除法について意見交換がされた。

振興センターからゴマや温存ハウスを用いた土着天敵の導入に関する情報提供したところ、以前に取り組んでいたことや町や県の補助制度の説明もあったことから「温存ハウスは是非またやりたい」と声があった。今後毎月の研究会の学習会などで勉強していく。

北川村トップ会談の開催（ゆず王国の復活を目指して）



集荷目標 1,300 t のスローガンを掲げ、トップ会談を開催

4月23日、北川村、JA、振興センターの関係機関が一堂に会し、トップ会談を開催した。北川村では、今後進むべき方向をとりまとめた「北川村ゆず振興ビジョン」（平成19年6月）を策定し、各施策に取り組んでいる。

ビジョン策定後3年目となる今回、これまでの取り組みの成果と本年度の活動計画について協議し、「ゆず王国の復活」を目指して各機関が共に協力し取り組んでいくことを確認した。

振興センターでは、今後も「北川村ゆず振興ビジョン」の具現化を目指し、支援をしていく。